

Vol.100 「制服の着崩し状況と内容」

一般的に、制服をだらしなく着ている生徒のいる学校に対しては、風紀や教育レベルの低い学校という評価がされ、学校や生徒自身についてマイナスイメージを持たれるようです。しかし、「制服の着崩しをする生徒が後を絶たない」と制服の着用指導に苦慮している学校もあるようです。今回は中学・高校の教員を対象に、学校制服の着崩し状況と、着崩しで困っていることについて調査しました。



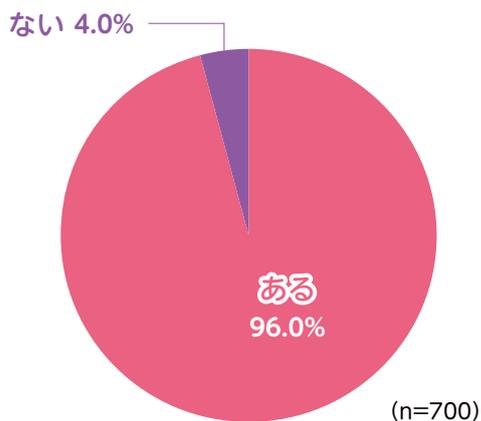
調査概要

調査対象：中学・高校の教員1,400人
 調査方法：インターネットリサーチ
 実施時期：2014年2月

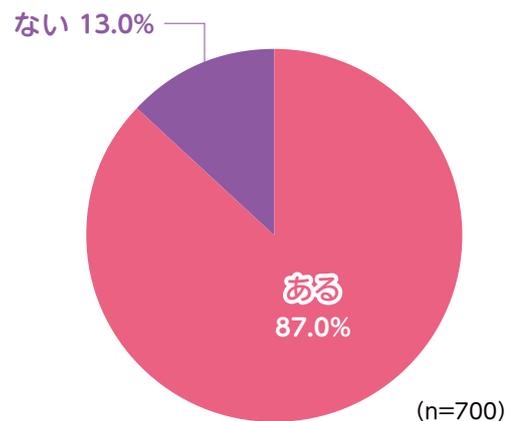
Q 1. 学校制服の採用状況

全国の中学・高校の教員1,400人を対象に聞いた制服の採用状況は、中学校は「ある」(96.0%)、高校は「ある」(87.0%)となり、ほとんどの中学・高校が制服を採用しているという結果になりました。

<中学校>



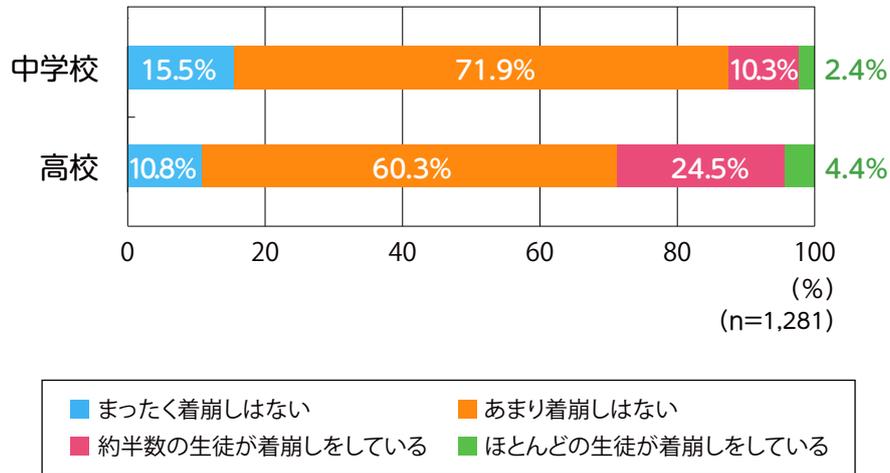
<高校>



【図1】 あなたがお勤めの学校には、制服の採用はありますか？（単数回答）

Q 2. 学校制服の着崩し状況

中学・高校の制服の着崩しの状況は、中学校は「まったく着崩しはない」(15.5%)、「あまり着崩しはない」(71.9%)を合わせると中学校の8割以上は制服をきちんと着用しています。高校では、「約半数の生徒が着崩しをしている」(24.5%)、「ほとんどの生徒が着崩しをしている」(4.4%)を合わせると高校の約3割で目立った制服の着崩しがあるようです。

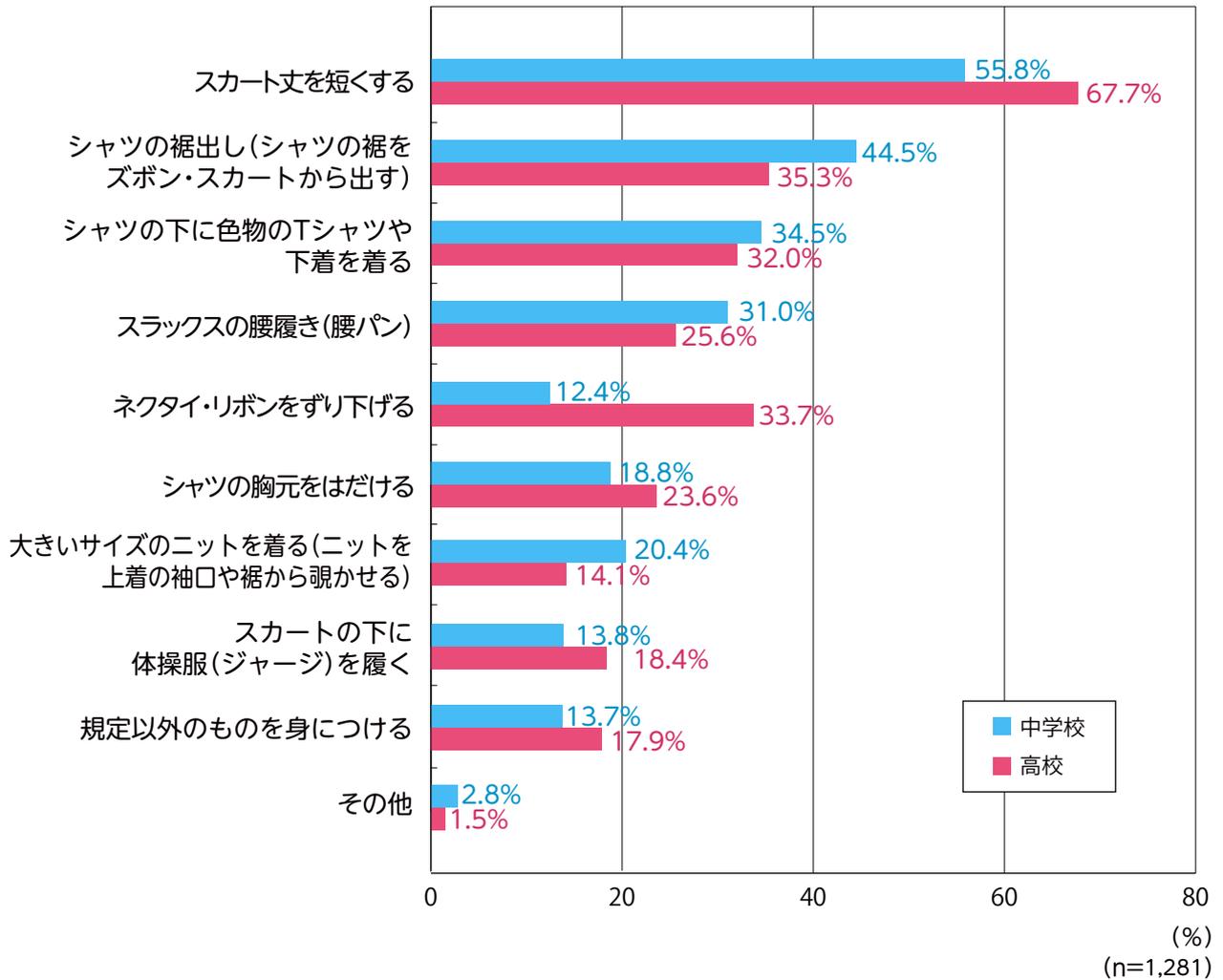


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

【図2】 あなたがお勤めの学校では、制服の着崩しはありますか？（単数回答）

Q 3. 学校制服の着崩し内容

生徒の制服の着崩しで指導に困っている内容は、「スカート丈を短くする」(中学校55.8%、高校67.7%)が最も多くなります。次に、「シャツの裾出し(シャツの裾をズボン・スカートから出す)」(中学校44.5%、高校35.3%)、「シャツの下に色物のTシャツや下着を着る」(中学校34.5%、高校32.0%)といったシャツの着崩しが多く見られます。また、高校では、「ネクタイ・リボンをずり下げる」(33.7%)も多いようです。



【図3】 制服の着崩しで、お困りの点はどのようなことですか？（複数回答）

 まとめ

制服は、学校のシンボルであり、生徒の制服の着こなし方は、その学校の状態を映す鏡とされています。

今回の調査では、中学・高校の学校制服の採用状況は、中学校は「ある」(96.0%)、高校は「ある」(87.0%)という結果となり、全国的に制服を採用している中学・高校が多いことがわかりました。制服の着崩し状況については、中学校では、「まったく着崩しはない」と「あまり着崩しはない」を合わせると中学校の8割以上は制服をきちんと着用しているという回答が多くなりましたが、高校になると、「約半数の生徒が着崩しをしている」と「ほとんどの生徒が着崩しをしている」を合わせると約3割の高校が着崩しをしているという回答となり、高校は中学校に比べて制服の着崩しをする生徒が多くなります。着崩しの内容は、「スカート丈を短くする」(中学校55.8%、高校67.7%)、「シャツの裾出し(シャツの裾をズボン・スカートから出す)」(中学校44.5%、高校35.3%)、「シャツの下に色物のTシャツや下着を着る」(中学校34.5%、高校32.0%)といった、スカートやシャツの着崩しが多く、制服指導に苦慮している先生も多いようです。

「なぜ、制服はきちんと着なければならぬのか?」と、生徒に聞かれて答えに詰まったという先生がいらっしゃいます。制服の着崩しを防止する方法としては、まず「制服をきちんと着ることの意義」や「着こなしの大切さ」について伝えることが重要となります。

毎月最終
火曜日
更新

KANKO ホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

KANKO ホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>